ブドウの害虫「クビアカスカシバ」の生態解明と防除方法の確立

【特徴】
全国的に被害が問題となっているブドウの害虫「クビアカスカシバ」の生態を明らかにし、有効な防除方法を開発した。

【活用が見込まれる分野】
果樹生産技術の向上

【成果】
果樹病害虫防除暦の改善

【内容】

①「クビアカスカシバ」は、幼虫がブドウの幹や枝を食害する。被害をうけたブドウの樹は弱ったり、時には枯れたりするため、大きな問題となる。

左：クビアカスカシバ成虫、中央：ブドウの樹に食入した幼虫、右：幼虫の食害により弱ったブドウの樹

②品種によって被害の発生状況に差がある。ブドウの樹の同じ位置に被害が複数年に渡り発生することがある（右図）。

③６月上中旬と７月上中旬の２回、防除薬剤を散布することで高い防除効果が得られる（下表：果粒の肥大が進むと果実の品質に影響があるため注意）。

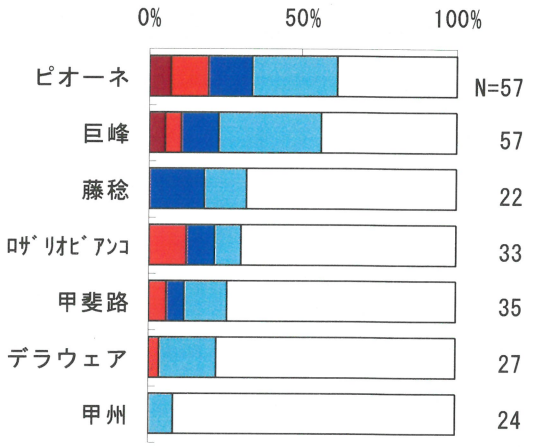

図　品種別被害状況（2010年）
方法：県内76名の生産者によるアンケート

■甚：樹の枯死等の重大な影響あり
■多：生育・収量へ大きな影響あり
■中：生育・収量へ軽微な影響あり
■少：被害はあるが生育・収量などへの影響なし
□無：被害なし

表　防除薬剤の散布による各防除体系の被害抑制効果（2013年）

散布体系	散布時期			寄生虫数	被害
	6月	7月	8月	(頭)z)	箇所数z)
発生初・中・後期	○	○	○	1.9	2.9
発生初・中期	○	○	－	1.7	1.7
発生中・後期	－	○	○	7.1	8.2
慣行	－	○	－	10.4	7.3

供試樹：巨峰（山梨市牧丘町）
散布日：6/14、7/19（一部7/11）、8/12
z）10aあたりの数値

お問い合わせ先　　山梨県果樹試験場（TEL：0553-22-1921）